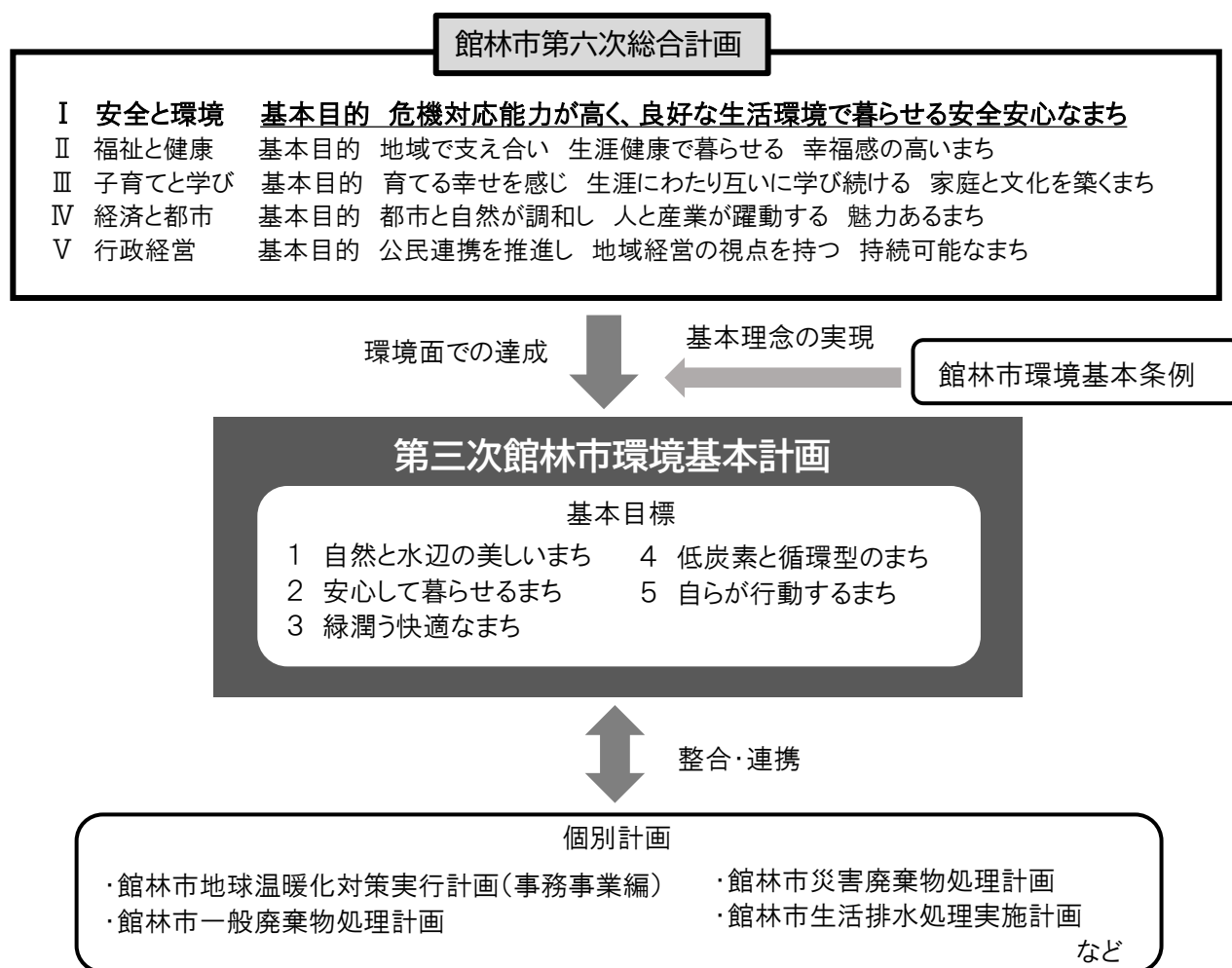


第三次館林市環境基本計画

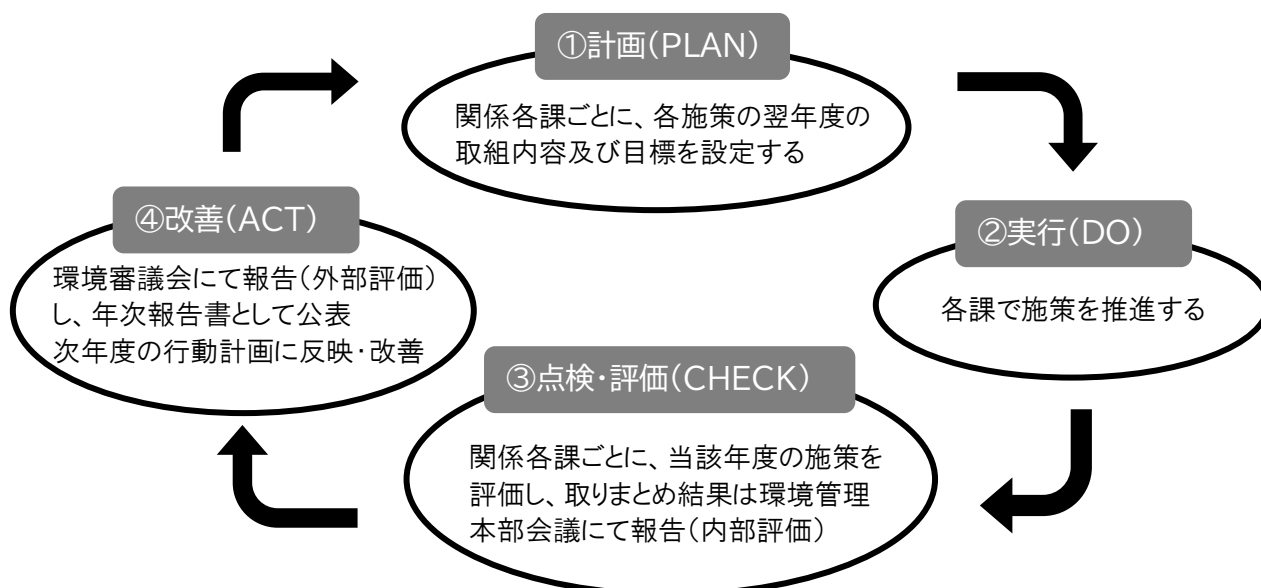
～令和2年度結果報告書～

1, 第三次館林市環境基本計画の位置づけ



2, 進行管理について

計画の進行管理は、環境マネジメントシステム（EMS）のPDCAサイクルの考え方にに基づき行います。



3. 基本目標及び行動目標の評価

基本目標1～5の評価は以下の通りです。

〈基本目標1 自然と水辺の美しいまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度	目標達成度
①みどり	鳥獣保護区の面積 特別緑地保全地区の面積	鳥獣保護区:773.2ha 特別緑地保全地区: 12.0ha	面積の維持	面積の維持	維持	○
②水辺	湿原面積	茂林寺沼湿原:5.6ha 蛇沼湿原:1.1ha 入ノ谷湿原:2.1ha	面積の維持	面積の維持	維持	○
③水資源	観測井2か所の地下水位 深度・2号井150m/上早川田町 ・3号井80m/上早川田町	2号井:17.23m 3号井:4.32m	現状維持	現状維持	2号井:17.07m 3号井:4.32m (令和元年度)	▲
④生きもの	メダカの生息確認の有無	生息	生息	生息	生息	○
⑤ふれあい	自然観察会の参加人数	2,770人 (事業数:7)	3,100人	3,300人	530人 (事業数:5)	△

基本目標1では、5項目中3項目達成しています。観測井2か所の地下水位については、2号井の水位が－0.16mとなりましたが、経年で見るとほぼ横ばいとなっています。自然観察会の参加人数では、新型コロナウイルス感染症の影響による中止や事業の見直しにより、大幅な減少となりました。

〈基本目標2 安心して暮らせるまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度	目標達成度
⑥空気	大気汚染物質(※1)の長期的評価による環境基準達成率(除く光化学オキシダント)	100%	100%	100%	100% (令和元年度)	○
	光化学オキシダントの短期的評価(※2)による環境基準の達成状況	未達成 (138日超過)	達成	達成	115日超過 (令和元年度)	✕
⑦水	鶴生田川五号橋の水質(BOD)(※3)	5.3mg/ℓ	5.0mg/ℓ以下	5.0mg/ℓ以下	5.0mg/ℓ	○
	城沼中央部の水質(BOD)(※3)	12.0mg/ℓ	5.0mg/ℓ以下	5.0mg/ℓ以下	8.8mg/ℓ	▲
⑧騒音・振動	観測地点での騒音の環境基準の達成率	昼間:100%	昼間:100%	昼間:100%	昼間:100%	○
		夜間:100%	夜間:100%	夜間:100%	夜間:100%	
⑨悪臭	悪臭の苦情件数	5件	3件	1件	9件	✕

⑩地盤・土壌	水準測定点25地点の5年間の平均地盤沈下量	6.1mm	6.0mm	6.0mm	4.6mm (令和元年度)	
--------	-----------------------	-------	-------	-------	------------------	---

※1大気汚染物質は一般大気及び自動車排出ガスの測定局による測定結果を示す

※2環境基準(1時間値が0.6ppm以下)を1回以上超えると未達成

※3水質の値は「75%値」を参照

基本目標2では、7項目中4項目達成しています。光化学オキシダントについて、環境基準を超過した日数は115日でした。また、鶴生田川五号橋の水質は目標を達成していますが、一方、城沼の中央部は、平成29年度より数値は低くなりましたが、目標値には届いていないため、引き続き水質改善に向けて取り組みが必要です。

〈基本目標3 緑潤う快適なまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度	目標達成度
⑪公園	市民1人当たりの公園・緑地等面積	27.91㎡	現状維持	現状維持	28.37㎡	
⑫景観	町並みが美しいと思う市民の割合	68.6% (令和元年度)	70%	80%	71.1%※ (令和3年度)	
⑬快適	館林クールシェアスポット登録施設数	29か所 (令和元年度)	40か所	50か所	募集せず	

※市民・事業者アンケート調査結果「町並みの美しさについて」より算出

基本目標3では、3項目中2項目達成しています。市民1人当たりの公園・緑地等面積では、人口の減少に伴い面積が大きくなっています。町並みが美しいと思う市民の割合については、令和元年度より+2.5%となり、中間目標値は達成しています。また、館林クールシェアスポットの登録施設数については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため登録施設の募集を行いませんでした。

〈基本目標4 低炭素と循環型のまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度	目標達成度
⑭再エネ	市民の低炭素型設備機器の導入率	22.9% (令和元年度)	50%	70%	23.3%※1 (令和3年度)	
⑮省エネ	市民の省エネルギー実施率	40.5% (令和元年度)	50%	60%	41.6%※2 (令和3年度)	
⑯循環型社会	市民1人1日当たりのごみ排出量	975g (平成30年度)	755.5g (令和4年度)	700g	944g (令和元年度)	
	資源化率	21.70%	33.2% (令和4年度)	40%	20.8% (令和元年度)	
⑰温暖化	市域からの二酸化炭素排出量	562千t-CO ₂ (平成28年度)	503千t-CO ₂	466千t-CO ₂	502千t-CO ₂	

⑮公共交通	拠点間を結ぶバス利用者数(3路線)	178,540人 (平成30年度)	現状維持	現状維持	132,228人	×
⑯気候変動	人口1万人当たりの熱中症による救急搬送者数	13.1人 (平成30年度)	減少	減少	7.2人	○

※1市民・事業者アンケート調査結果「地球温暖化防止につながる設備の導入」より算出

※2市民・事業者アンケート調査結果「省エネルギー行動について」より算出

基本目標4では、7項目中2項目達成しています。市民の低炭素型設備機器の導入率、省エネルギー実施率は平成29年度よりわずかに増加しました。また、市民1人1日当たりのごみ排出量も平成30年度より減少しました。一方、拠点間を結ぶバス利用者数は平成30年度より減少し、現状維持とはなりませんでした。

〈基本目標5 自らが行動するまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度	目標達成度
⑳環境啓発	環境啓発事業への参加人数	2,073人 (平成30年度)	2,800人	3,000人	イベントの開催無し	
㉑環境学習	出前講座の年間実施件数及び参加人数	23件・1,392人 (平成30年度)	28件・1,680人	30件・1,800人	7件・350人	
㉒環境活動	環境に係わる活動への参加率	22.4% (令和元年度)	35%	45%	18.2%※ (令和3年度)	

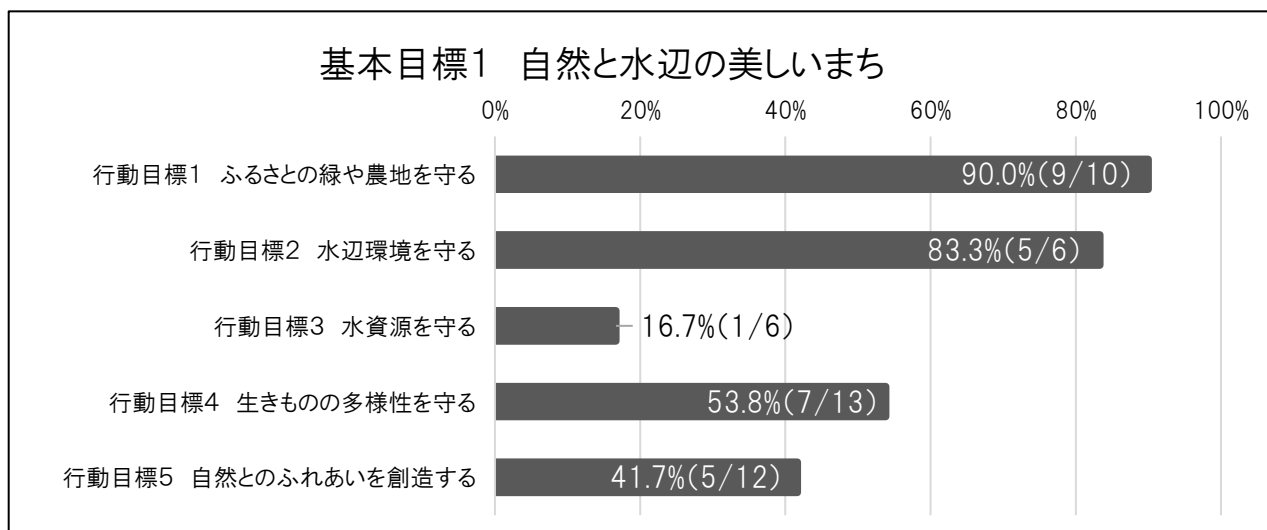
※市民・事業者アンケート調査結果「環境に係わる活動について」より算出

基本目標5では、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント・出前講座が中止となり、環境啓発及び環境学習を十分に実施できませんでした。また、環境に係わる活動への参加率も平成29年度より減少しました。

4. 関係各課における行政施策の評価

基本目標1 自然と水辺の美しいまち【達成率：57.4%】

行動目標1～5の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

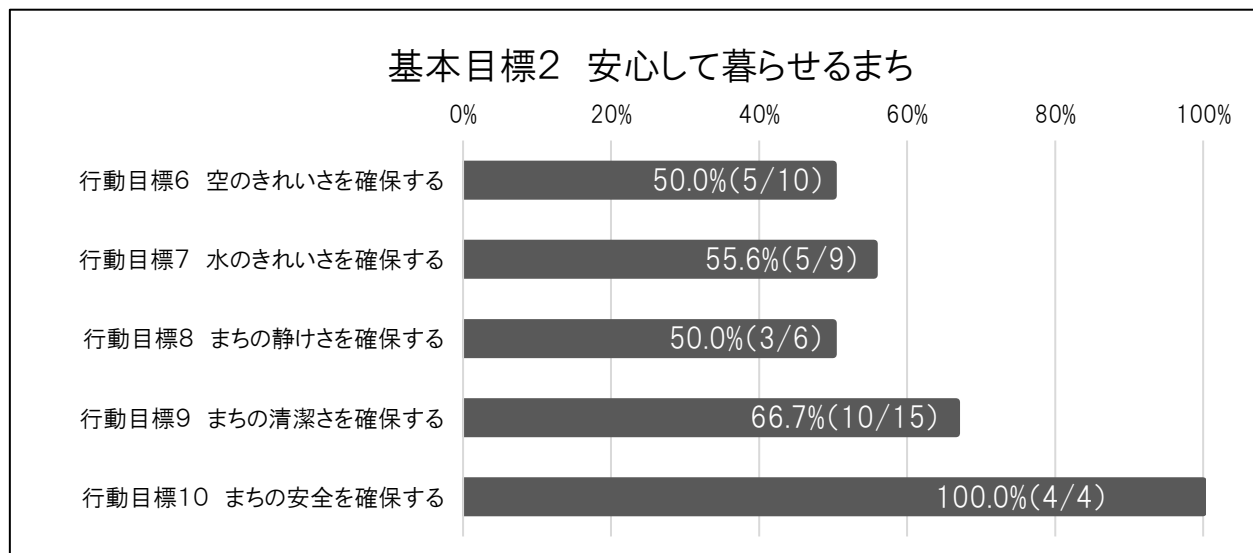


行動目標1「ふるさとの緑や農地を守る」では、樹木の管理・保全や土地開発時の指導、適正な農業使用の周知など、緑や農地の保全に向けた取り組みを実施しました。

一方、行動目標3「水資源を守る」では、地下水の保全、河川の氾濫防止等を目的として実施している補助金制度の申請数が減少傾向にあり、制度の周知が課題となっています。

基本目標2 安心して暮らせるまち【達成率：61.4%】

行動目標6～10の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

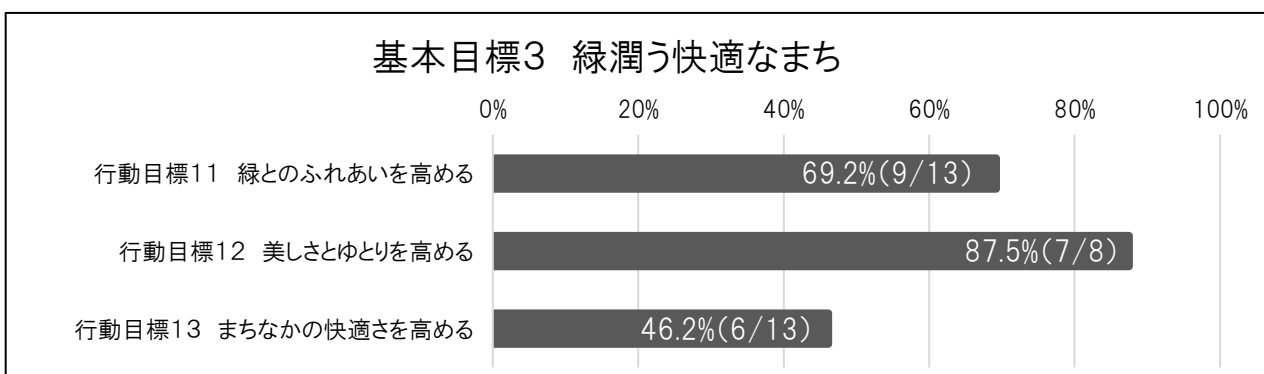


行動目標7「水のきれいさを確保する」では、水質調査の実施や城沼サミットへの支援など、水質の保全に向けた取り組みを実施・支援しました。

一方、行動目標6「空のきれいさを確保する」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベントが中止となり、エコドライブや電気自動車に関する情報の発信を十分に行うことができませんでした。情報発信の方法を見直すなど、今後の取り組みについて検討していく必要があります。

基本目標3 緑潤う快適なまち【達成率：64.7%】

行動目標11～13の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

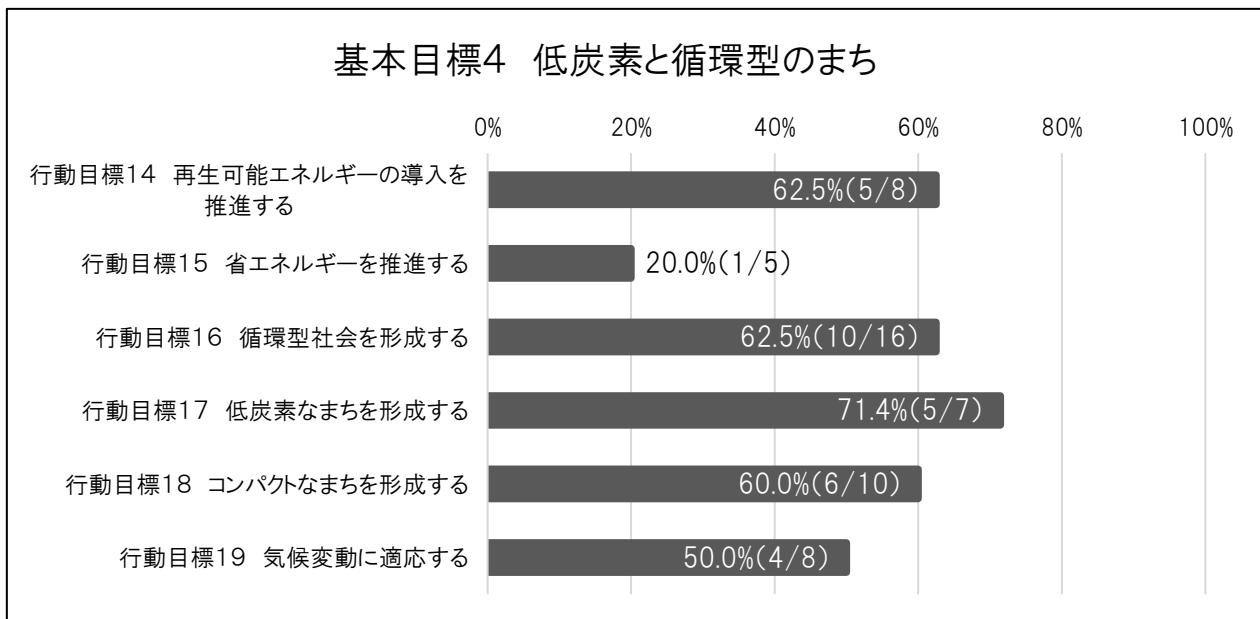


行動目標12「美しさとゆとりを高める」では、不法投棄防止のための周知看板の設置や空き家の活用、公園等の花壇の整備などの取り組みを実施しました。

一方、行動目標13「まちなかの快適さを高める」では、新型コロナウイルス感染症の影響により館林クールシェアスポットや打ち水大作戦などが中止及び廃止となり、特に夏のクールダウンの推進に関係する事業を十分に実施できませんでした。

基本目標4 低炭素と循環型のまち【達成率：57.4%】

行動目標14～19の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

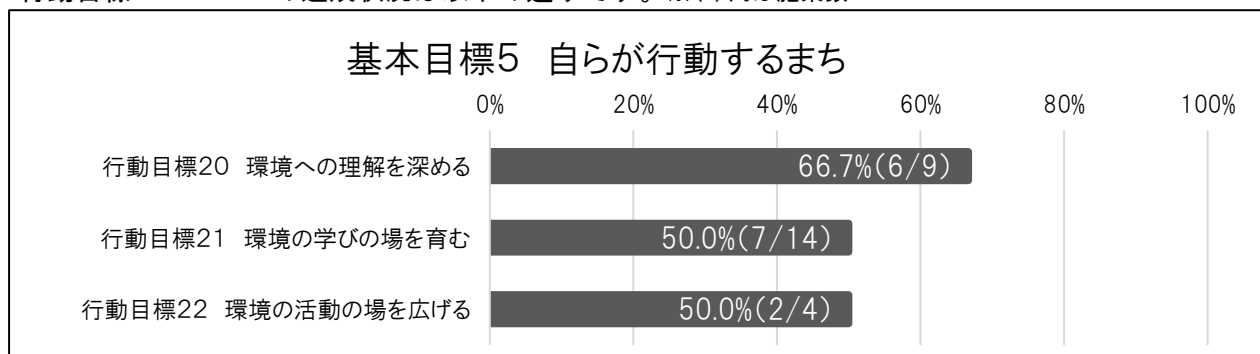


行動目標14「再生可能エネルギーの導入を推進する」では、家庭における再生可能エネルギーの利用促進のため、令和2年度に蓄電池設置補助金制度の検討を進め、令和3年度から蓄電池設置補助金制度の運用を開始しました。

一方、行動目標15「省エネルギーを推進する」では、主な取り組みである、省エネの普及啓発活動を十分に実施することができませんでした。より多くの方に取り組んでいただけるような周知啓発の方法を検討する必要があります。

基本目標5 自らが行動するまち【達成率：55.6%】

行動目標20～22の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数



行動目標22「環境の活動の場を広げる」では、環境賞で4件の顕彰を行い、市ホームページや広報などを通じて周知をしました。

一方、行動目標21「環境の学びの場を育む」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、自然観察会や出前講座、学校における環境教育の規模縮小及び中止により、事業を十分に実施することができませんでした。

市民・事業者アンケート調査結果
－ 資料編 －

1, 調査結果概要

第三次館林市環境基本計画の進行管理にあたり、市民・事業者の環境への取組状況を把握し、市の環境行政を改善するために、アンケート調査を実施しました。

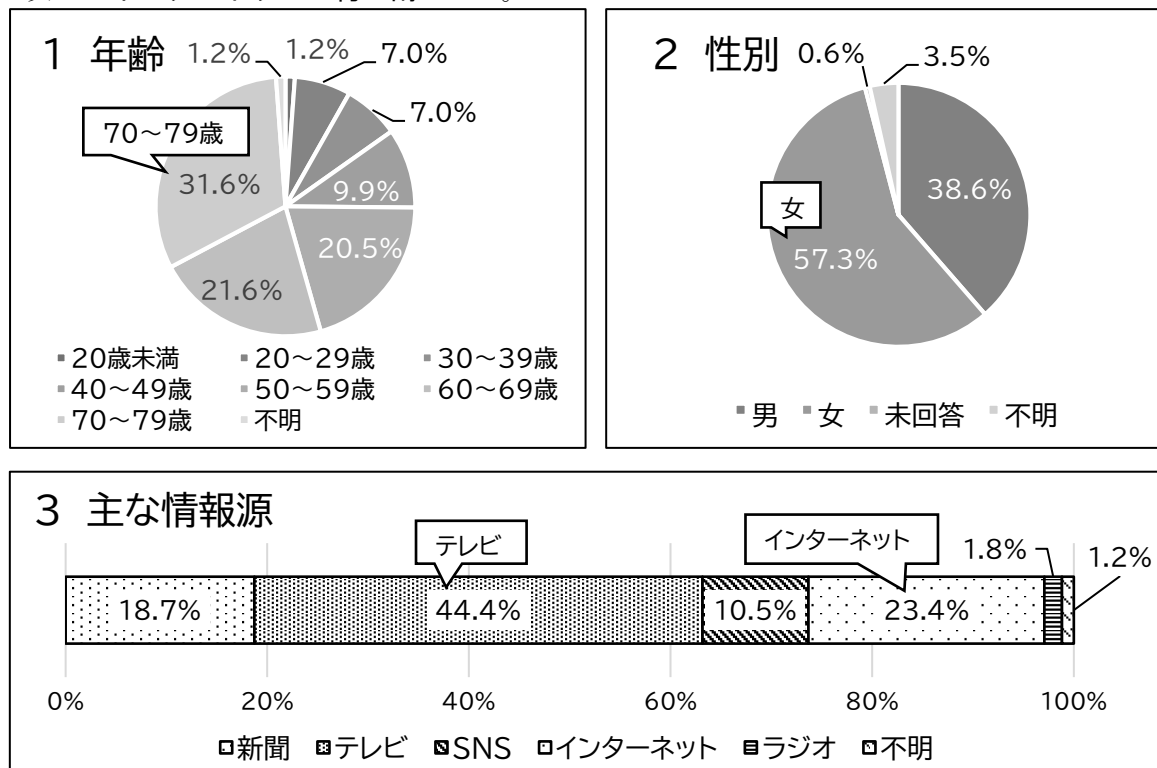
調査対象	市民	事業者
調査期間	令和3年5月17日～令和3年6月7日	
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	館林商工会議所所有データより業種ごとに無作為抽出
調査数	400	80
回収数	171	49
回収率	42.8%	61.3%
	45.8%	

2, 市民アンケート調査結果

【1 年齢・2 性別・3 主な情報源】

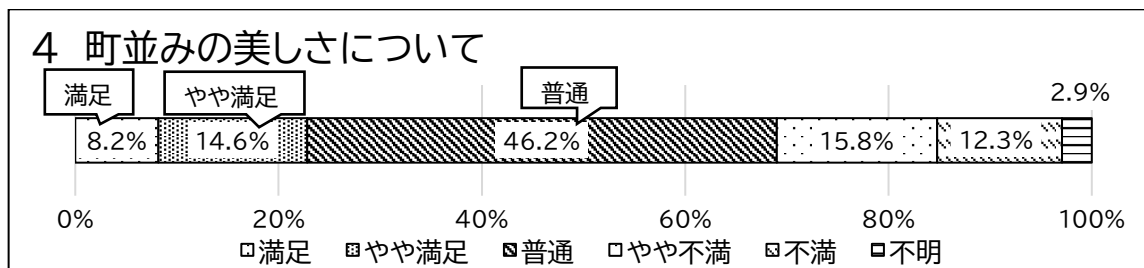
回答率が最も高かった年齢は70～79歳で、全体の約3分の1となりました。若年層に近づくにつれて、回答率は減少しています。男女比率では、女性の割合が5割以上となりました。

また、主な情報源では、全体の約4割がテレビから主に情報を得ていると回答があり、次いでインターネットが約2割でした。



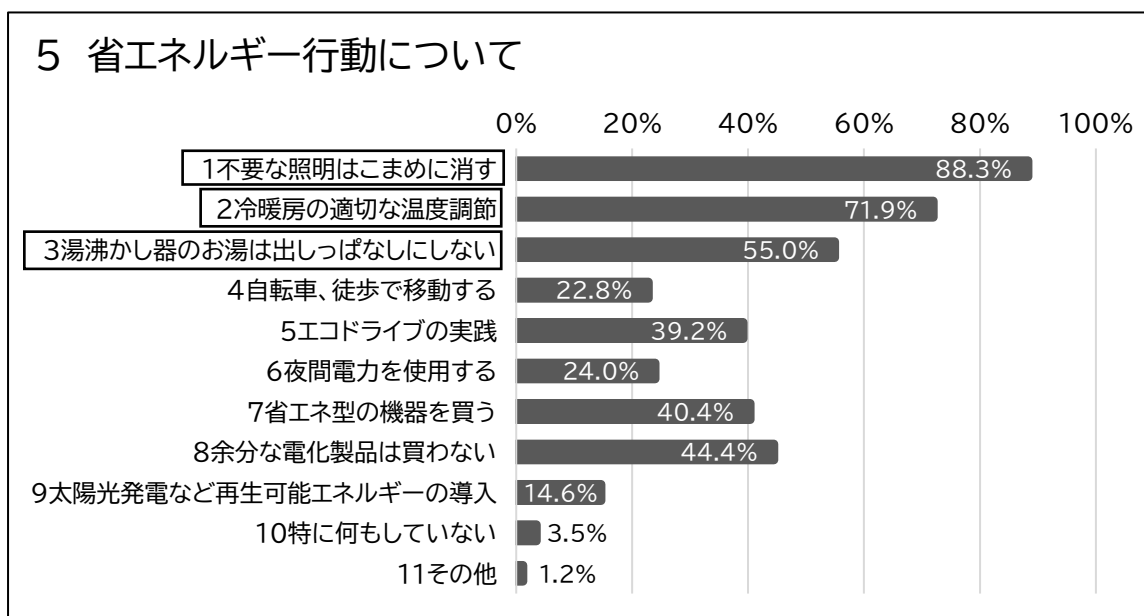
【4 町並みの美しさについて】

自分が住んでいる地域のことについての質問では、「満足」「やや満足」は全体の約2割、「普通」が全体の約5割という結果になりました。



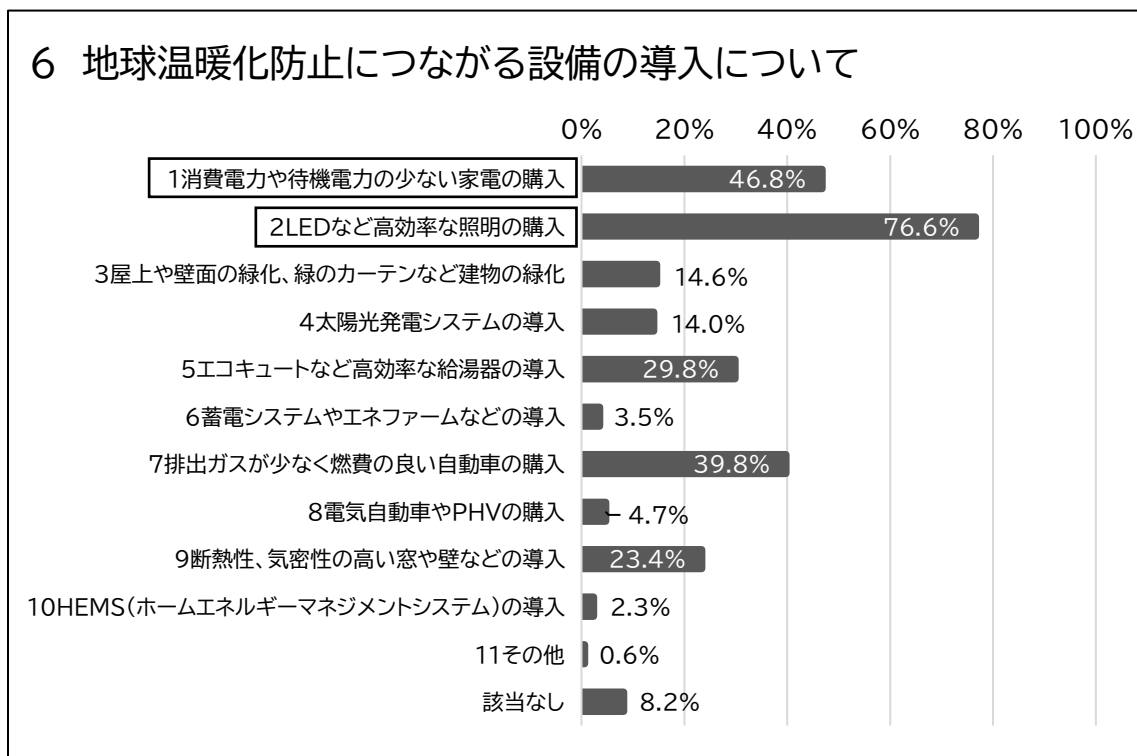
【5 省エネルギー行動について】

日常生活の中で実践している省エネルギー行動についての質問では、こまめな節電、冷暖房の温度調節、お湯を出しっぱなしにしないなどは5割を超えています。特に何もしていない人の割合は4%にとどまりました。



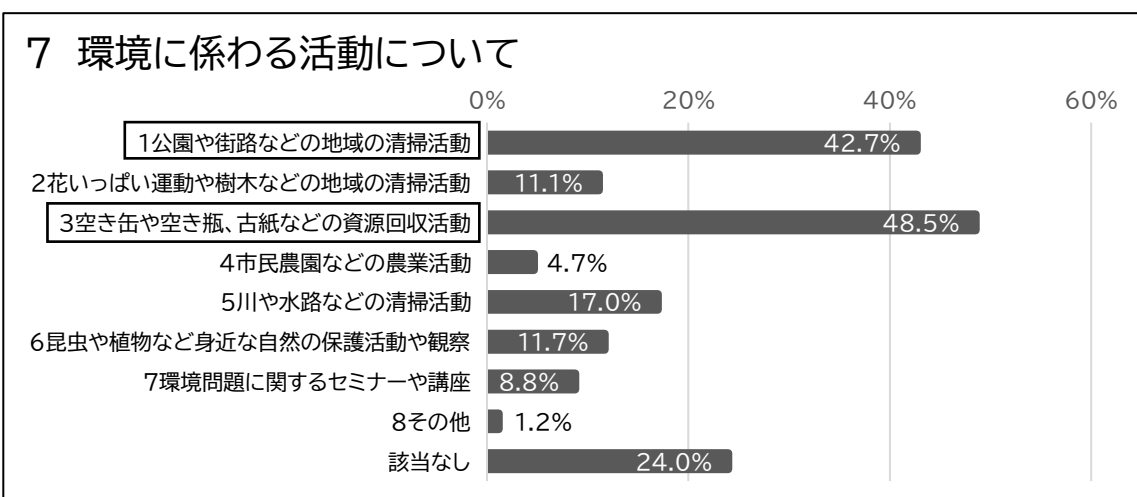
【6 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

すでに導入および購入している設備についての質問では、一番多かったのは「LEDなどの高効率な照明の購入」で約8割、次いで消費電力や待機電力の少ない家電の購入が約5割となりました。



【7 環境に係わる活動について】

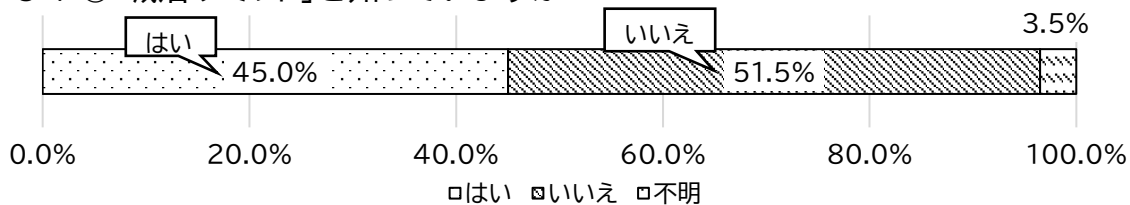
清掃活動や保全活動など、参加したことがあるものについての質問では、公園や街路などの清掃活動、資源回収活動は4割以上の人に参加したことがあるという結果になりました。



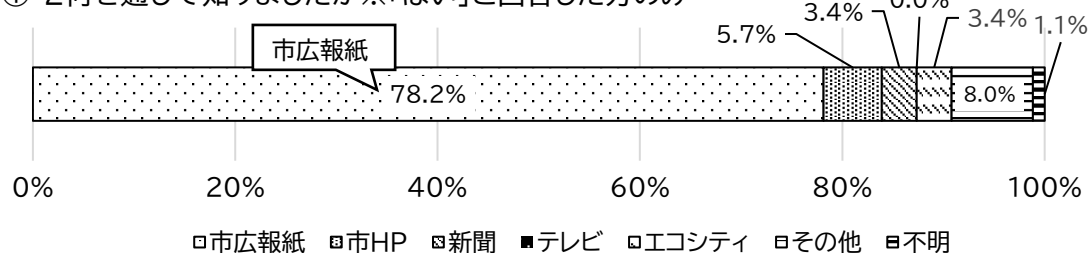
【8-1 水に関すること】

水質保全のために食べ残しや食用油を流していない人は96%となり、多くの人が取り組んでいる結果となりました。また、雨水を節水のために使用している人は1割に満たなかったものの、利用してみたいと思う人は約5割となりました。

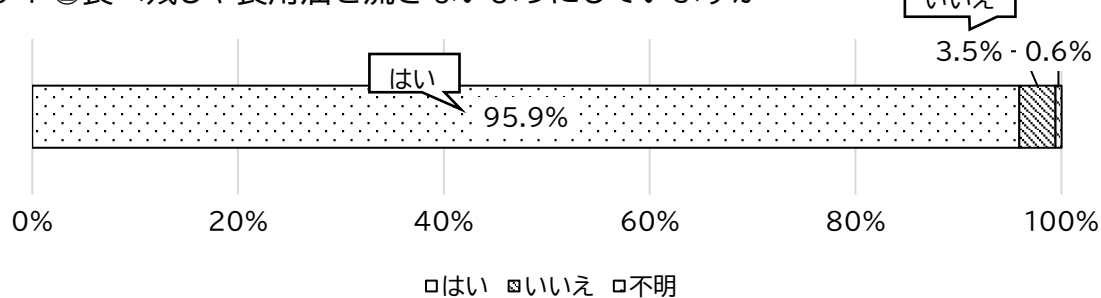
8-1-①「城沼サミット」を知っていますか



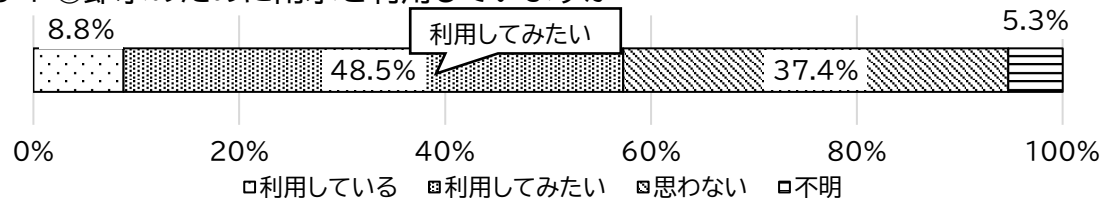
①-2何を通じて知りましたか※「はい」と回答した方のみ



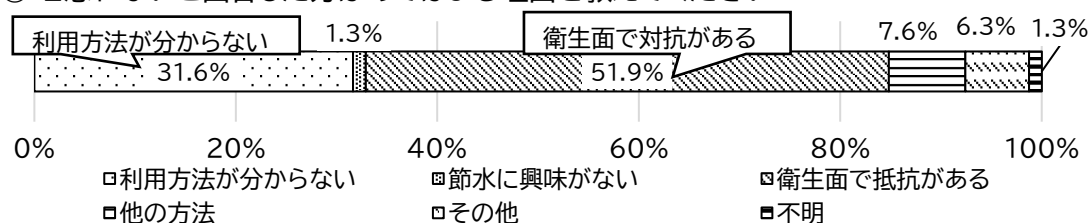
8-1-②食べ残しや食用油を流さないようにしていますか



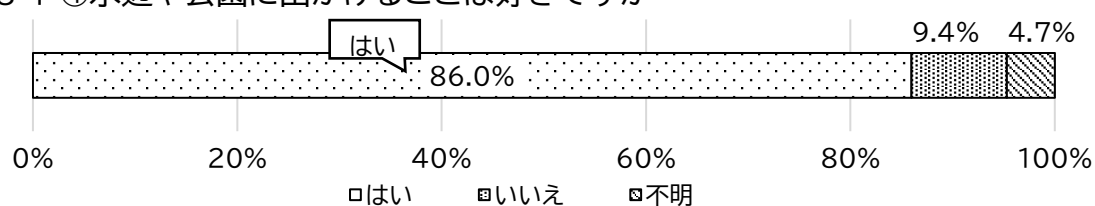
8-1-③節水のために雨水を利用していますか



③-2思わないと回答した方はあてはまる理由を教えてください

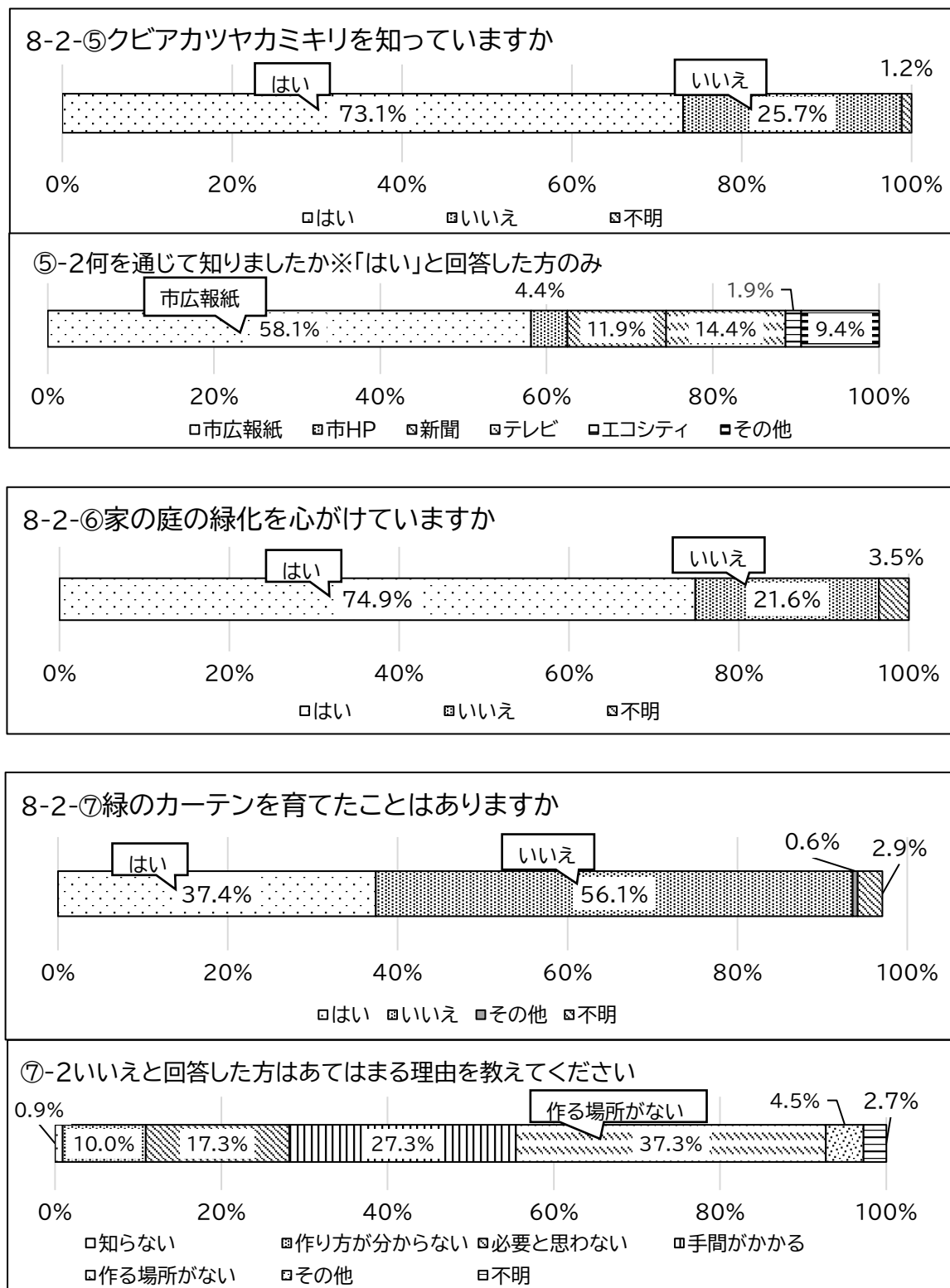


8-1-④水辺や公園に出かけることは好きですか



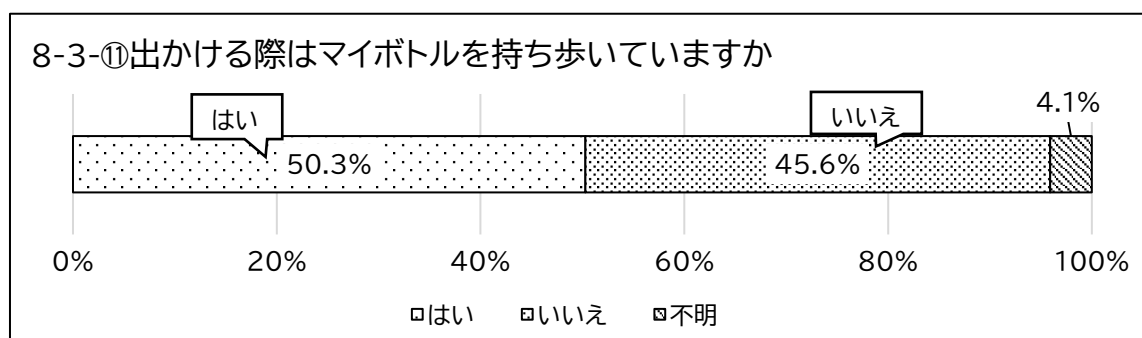
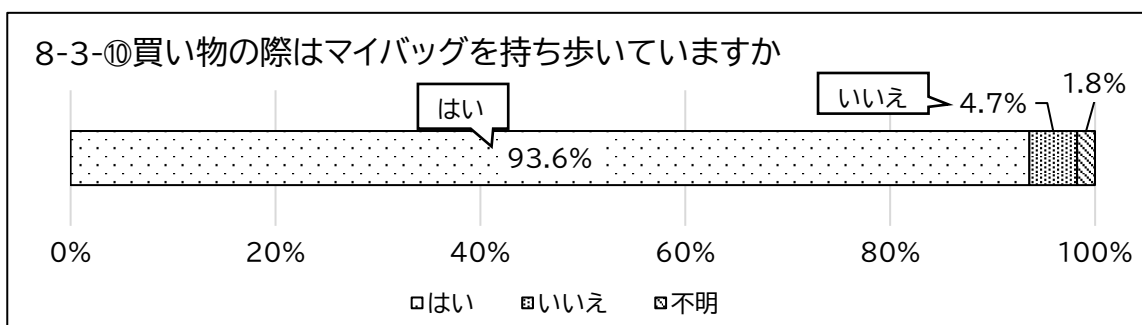
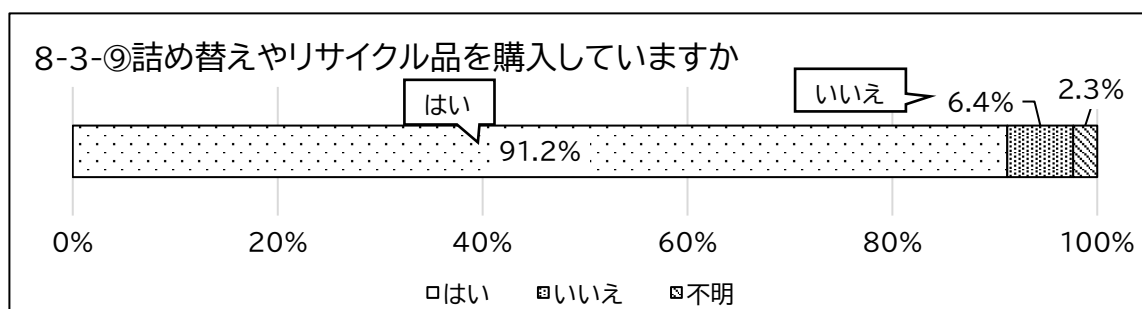
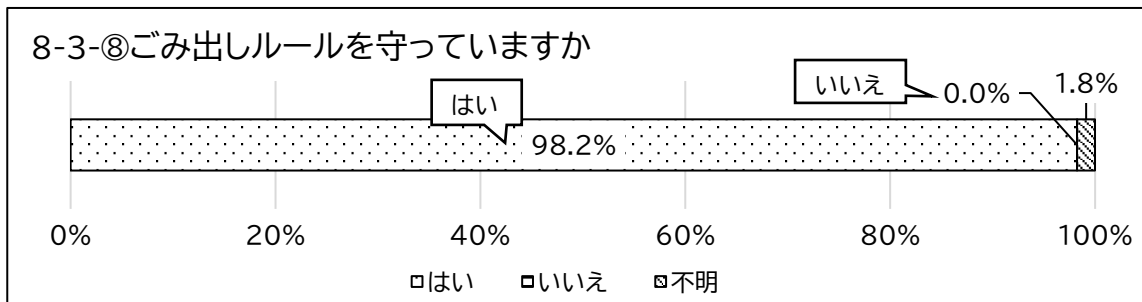
【8-2緑に関すること】

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリを知っている人は約7割となり、知っている人の内、約6割は市広報紙を通じて知ったという結果になりました。また、家の庭の緑化を心がけている人は約8割と多く、一方で緑のカーテンを育てたことがある人は約4割という結果になりました。



【8-3 ごみに関すること】

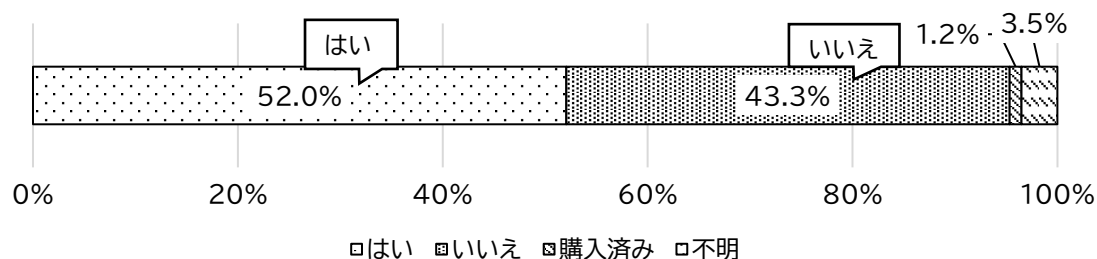
ごみ出しルールを守っている人は98%になり、多くの人がごみの分別を意識しているという結果になりました。また、買い物の際にマイバッグを持ち歩いている人は約9割、マイボトルを持ち歩いている人は約5割となりました。



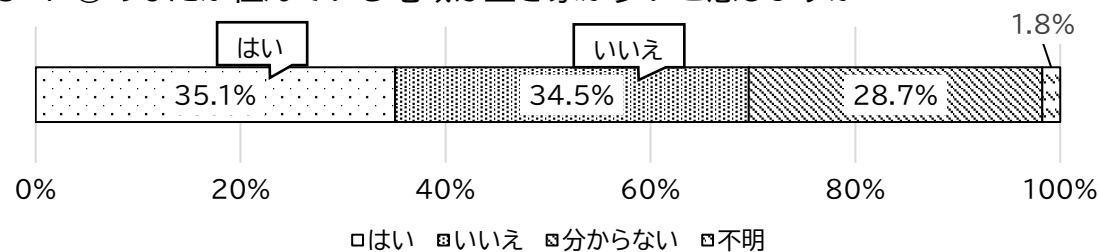
【8-4 生活のこと】

電気自動車については、環境のために購入したいと思う人がおよそ半数となりました。公共交通機関の利用頻度については、「ほとんどない」「ない」と答えた人の割合は約8割でした。また、館林市環境賞、学校エコライフ活動を知っている人の割合はそれぞれ2割未満にとどまる結果となりました。

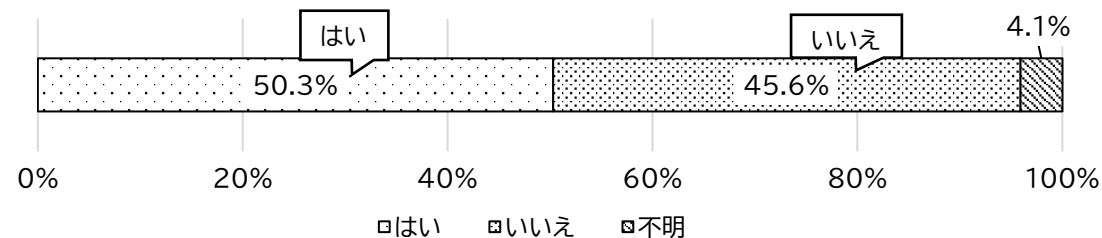
8-4-⑫環境のために電気自動車を購入したいと思いますか



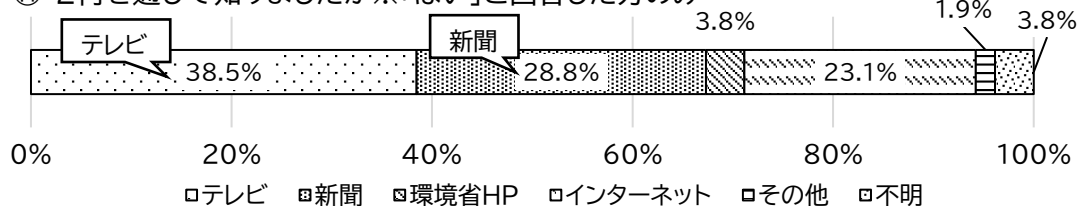
8-4-⑬あなたが住んでいる地域は空き家が多いと感じますか



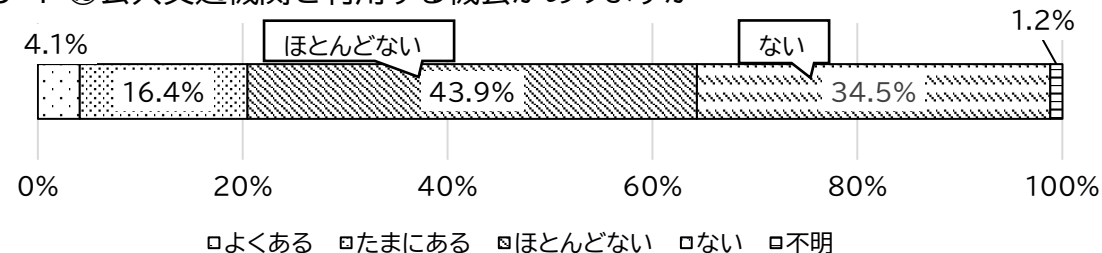
8-4-⑭「COOL CHOICE」を知っていますか



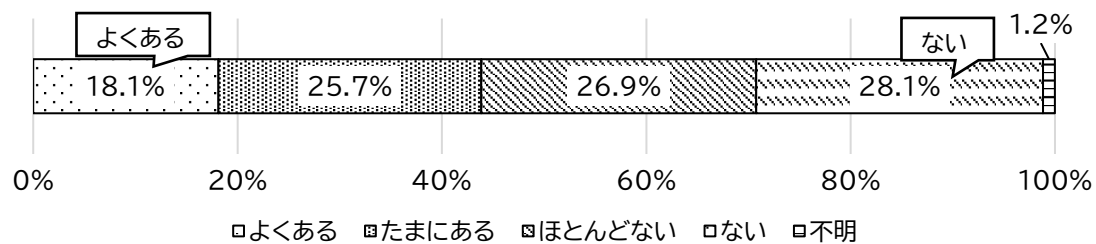
⑭-2何を通じて知りましたか※「はい」と回答した方のみ



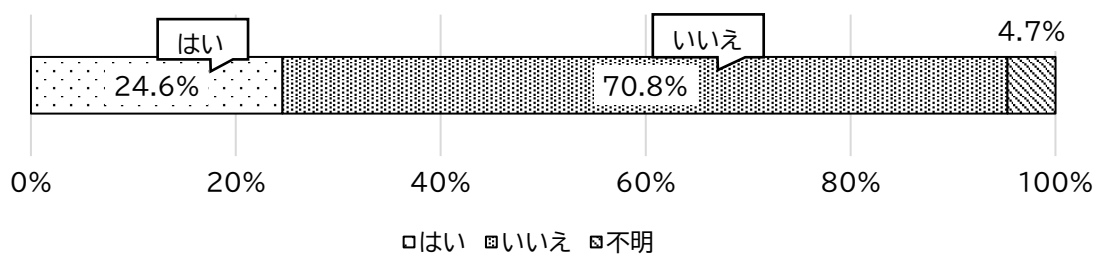
8-4-⑮公共交通機関を利用する機会がありますか



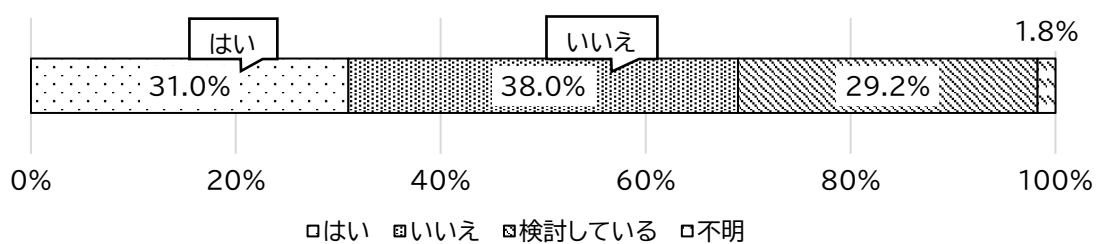
8-4-⑯自転車を利用する機会がありますか



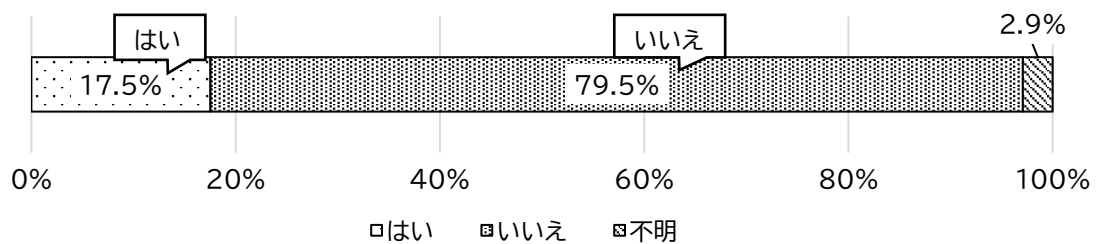
8-4-⑰「コンパクトシティ」を知っていますか



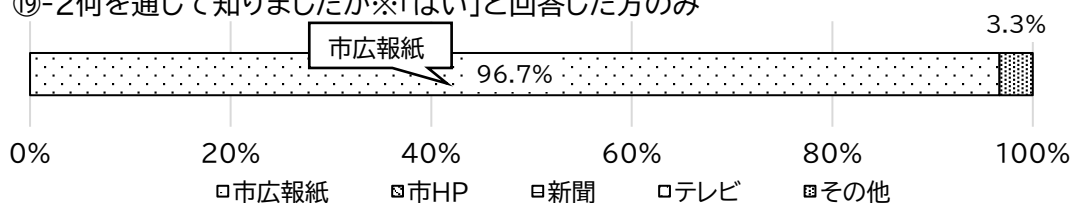
8-4-⑱防災セット(避難用)を準備していますか

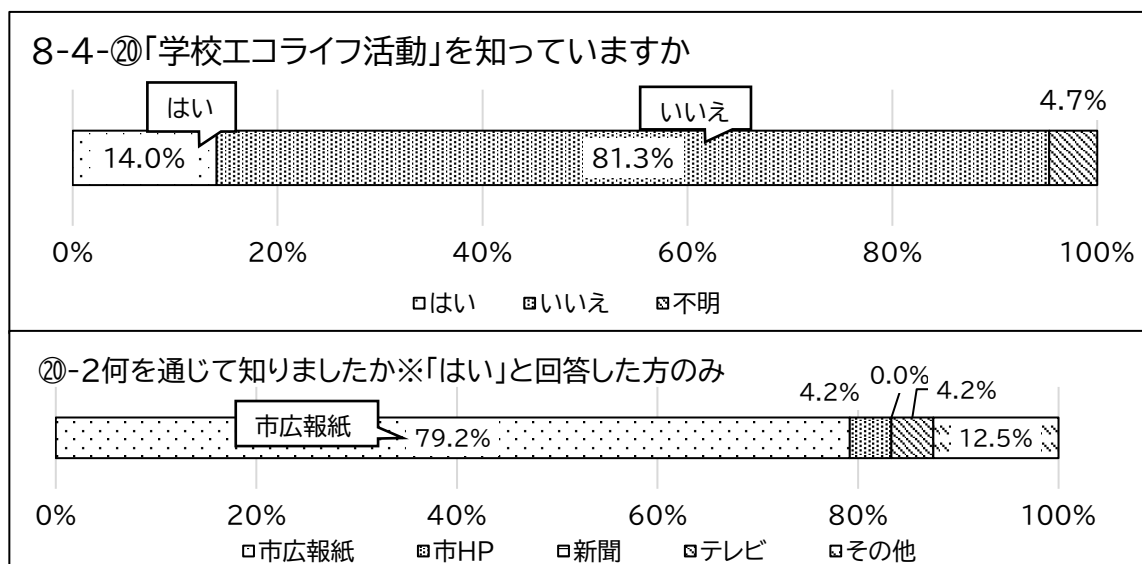


8-4-⑲「館林市環境賞」という制度を知っていますか



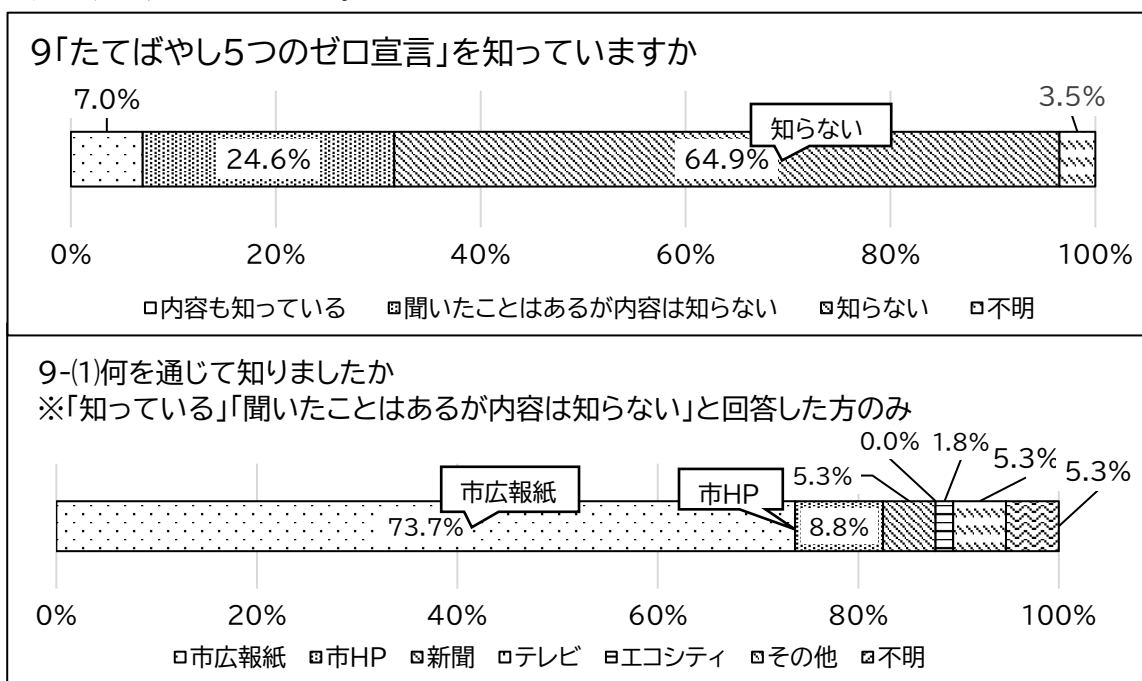
⑲-2何を通じて知りましたか※「はい」と回答した方のみ





【9たてばやし5つのゼロ宣言について】

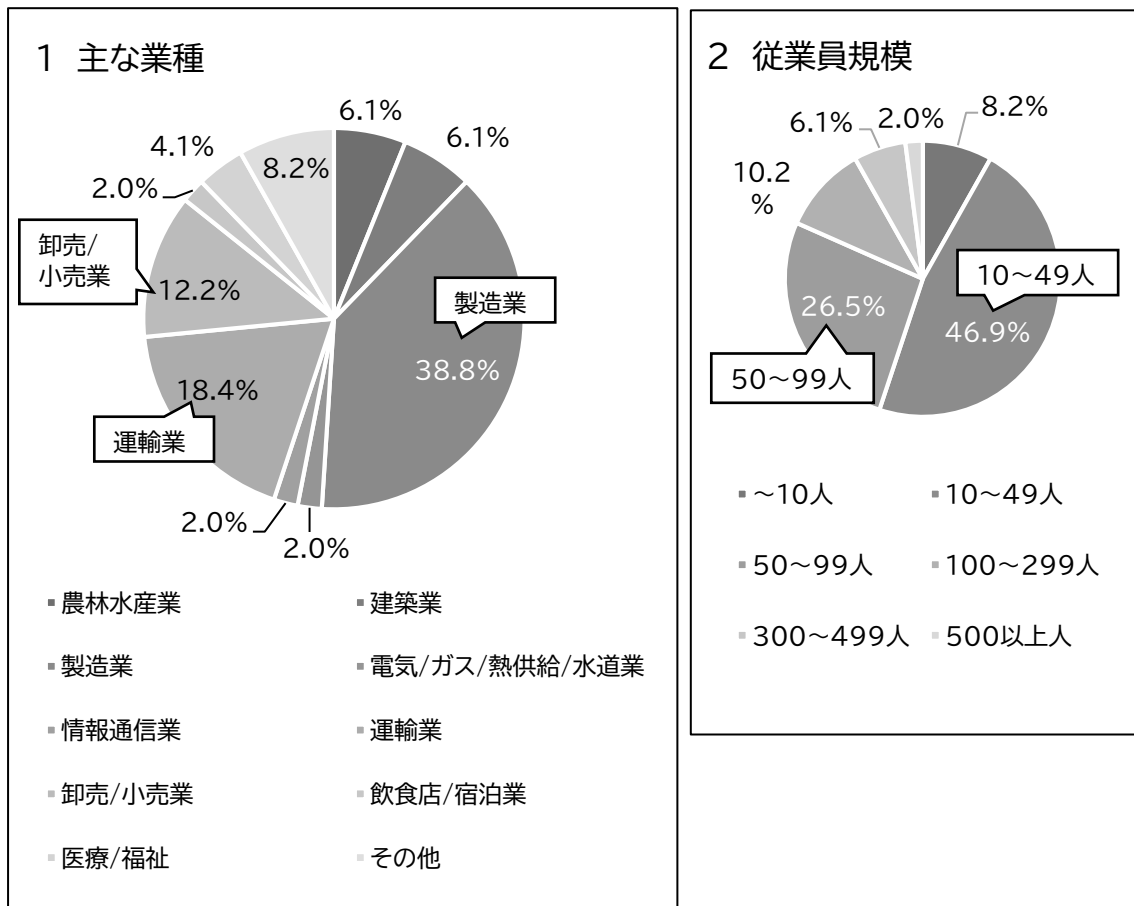
「内容も知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた人は約3割に対し、「知らない」と答えた人は約7割と、多くの人がたてばやし5つのゼロ宣言を知らないという結果になりました。また、何を通じて知ったかという質問では、市広報紙で知った人が約7割となりました。



3, 事業者アンケート調査結果

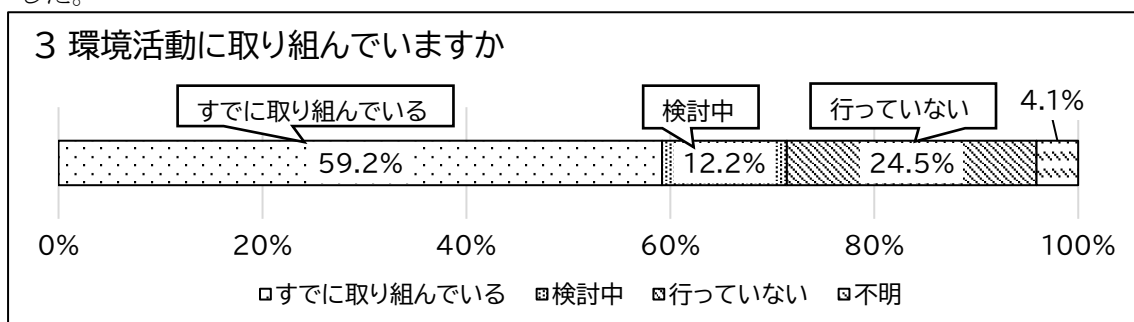
【1 主な業種・2 従業員規模】

回答があった事業者の中で主な業種は、**製造業が約4割**と一番多い結果となりました。次いで**運輸業、卸売/小売業**となりました。従業員規模では、**10～49人**が約5割と一番多く、次いで**50～99人**となりました。



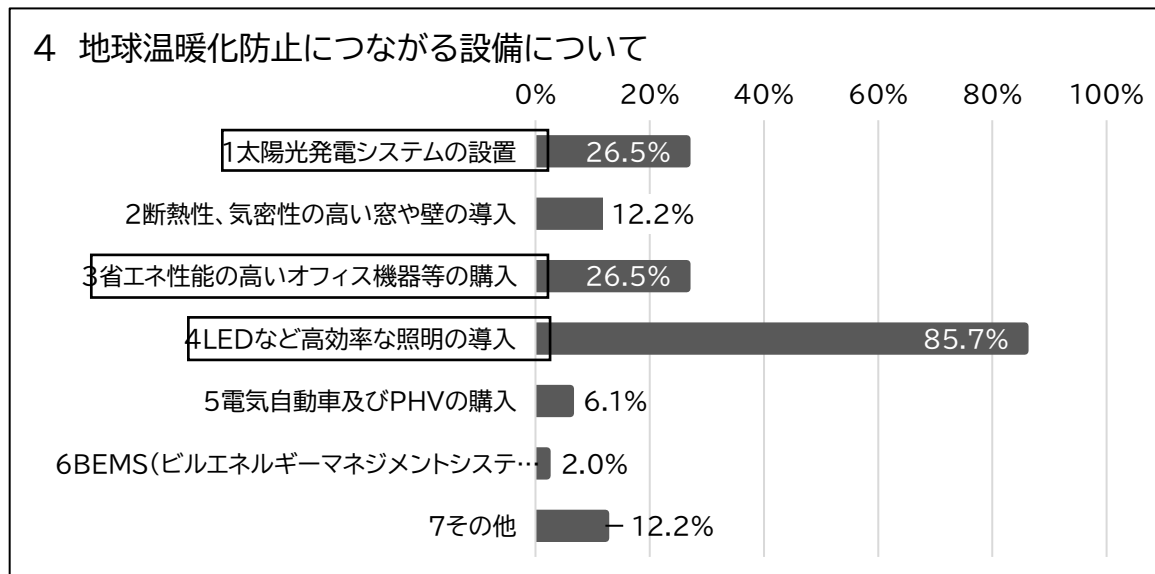
【3 環境活動に取り組んでいますか】

環境活動に取り組んでいる事業所は約6割となり、半数以上の事業所が取り組んでいる結果となりました。「検討中」「行っていない」と回答した事業所は約4割となりました。



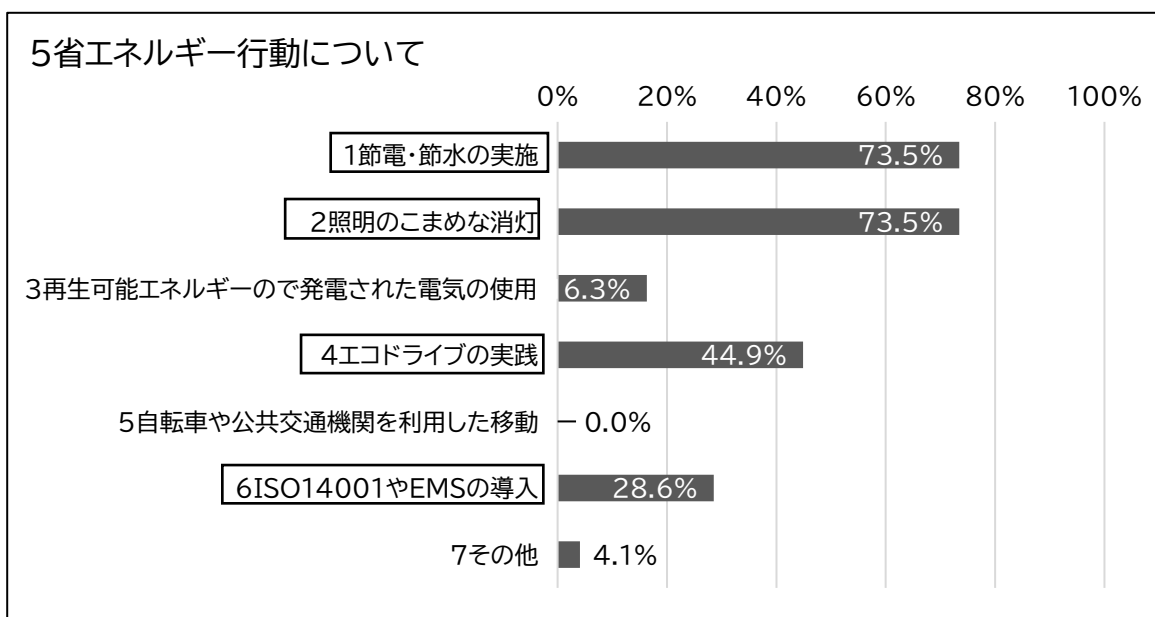
【4 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

一番多かったのは「LEDなどの高効率な照明の導入」で、約9割の事業者が導入している結果となりました。次いで、「太陽光発電システムの設置」、「省エネ性能の高いオフィス機器等の購入」となりました。



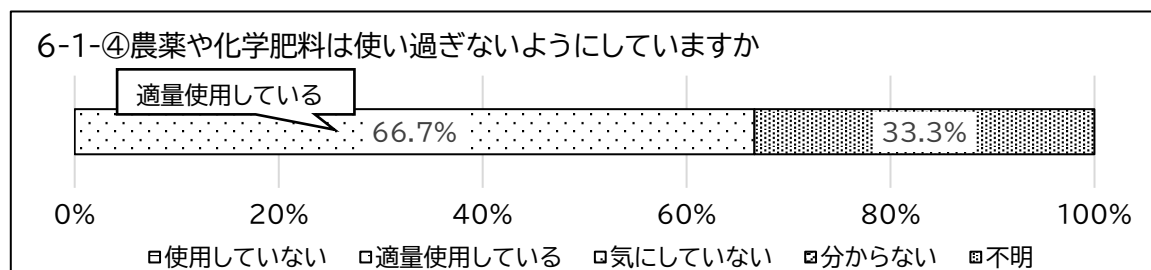
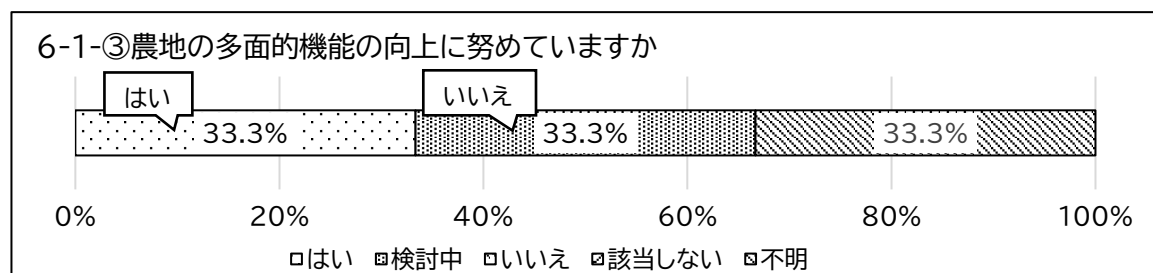
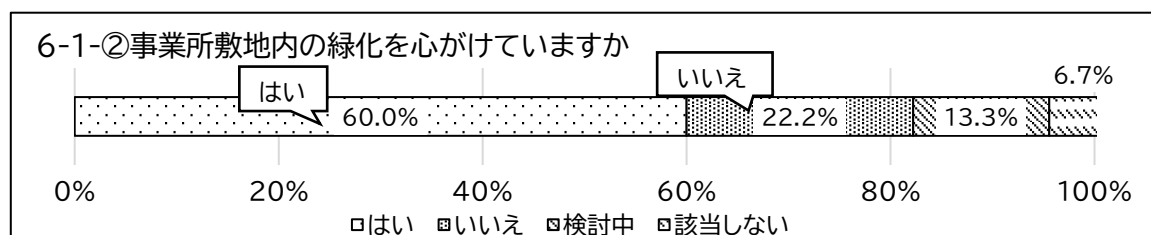
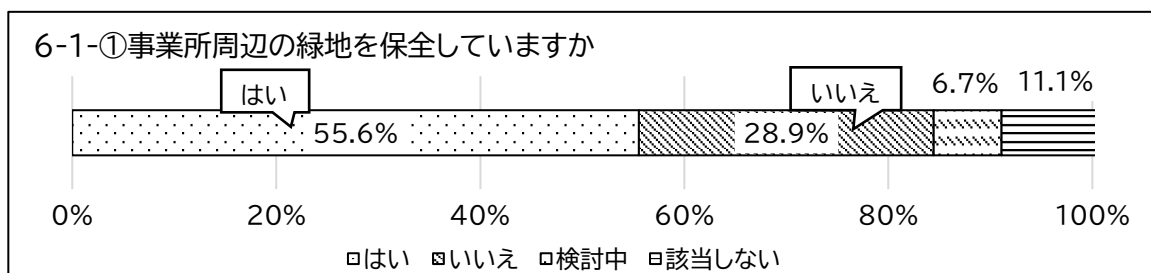
【5 省エネルギー行動について】

「節水・節電の実施」、「照明のこまめな消灯」を約7割の事業者が取り組んでいる結果となりました。次いで「エコドライブの実践」、「ISO14001やEMSの導入」となりました。



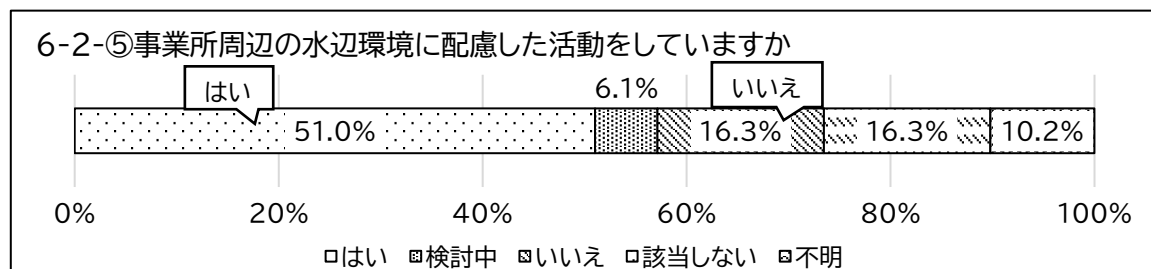
【6－1 緑のこと】

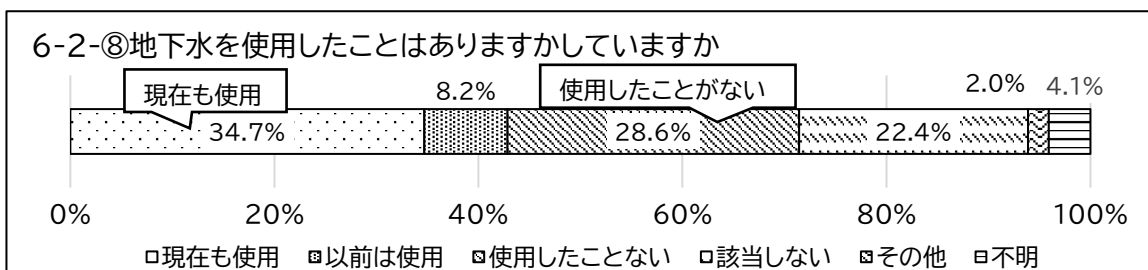
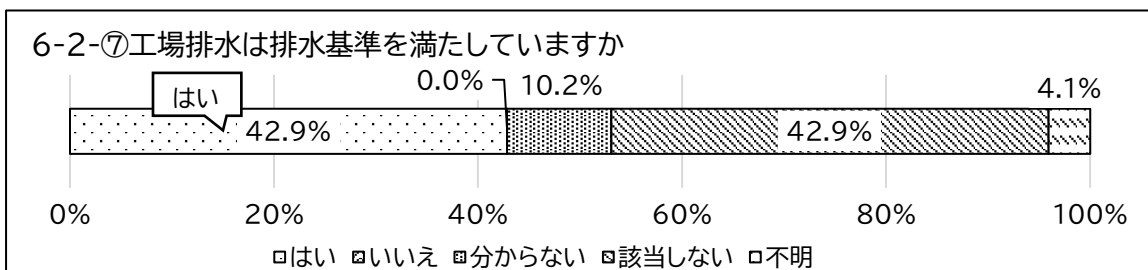
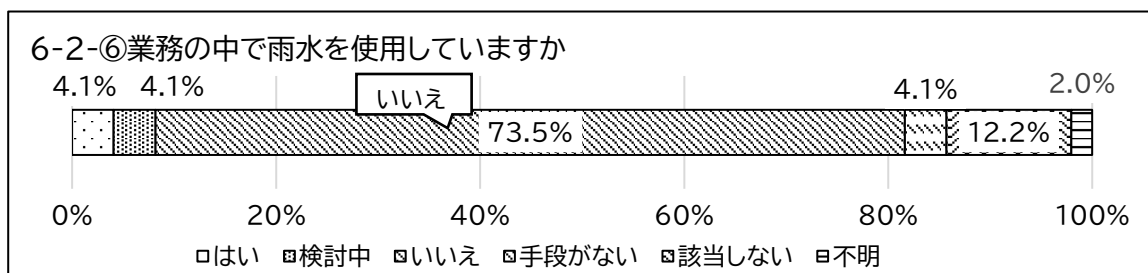
事業所周辺の緑地を保全している事業所、事業所敷地内の緑化を心がけている事業所はそれぞれ約6割となりました。また、農薬については、約7割の事業所が適量を使用しているという結果となりました。



【6－2 水のこと】

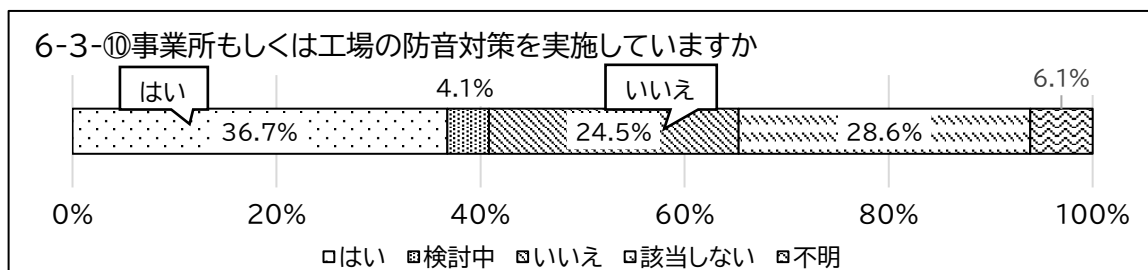
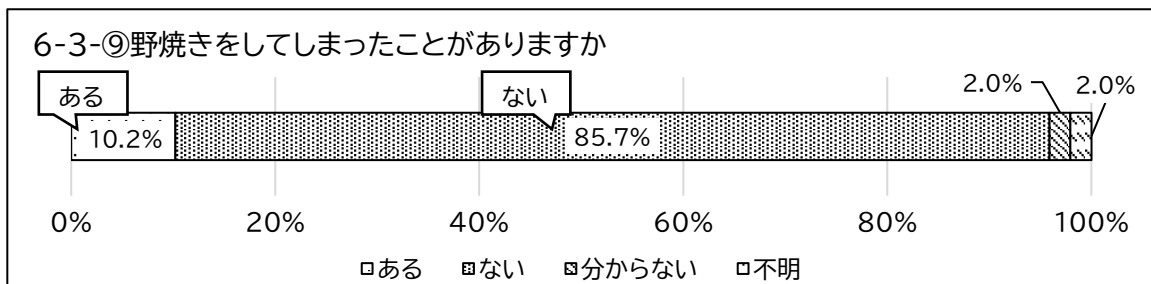
事業所周辺の水辺環境に配慮している事業所は約5割となりました。また、事業活動の中で地下水を使用している事業所は約4割、以前使用していた事業所は約1割となりました。

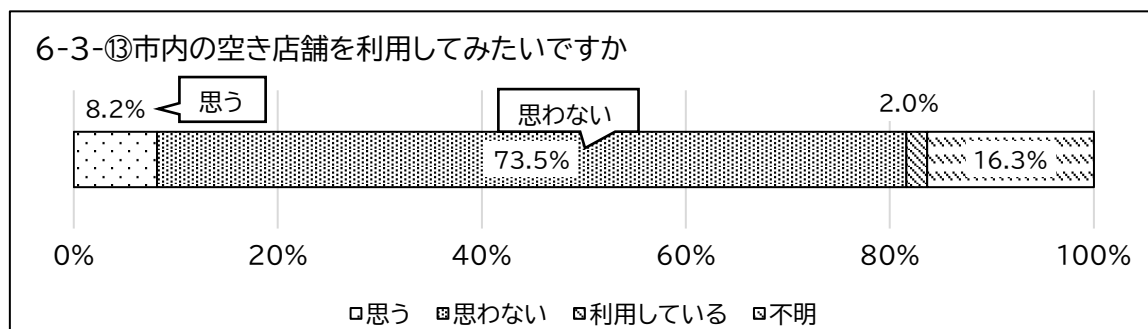
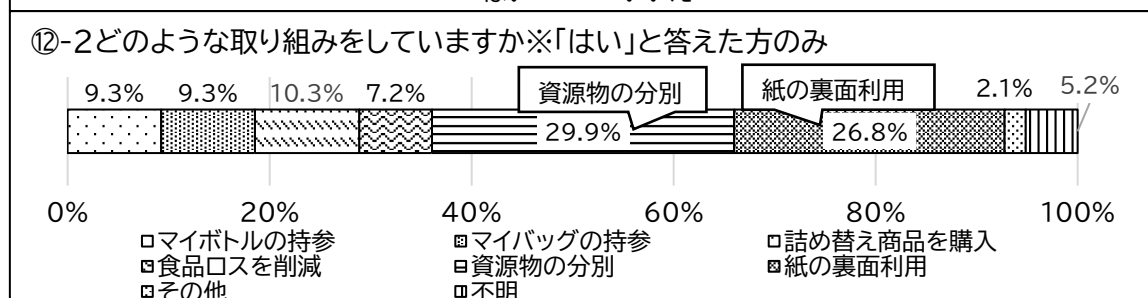
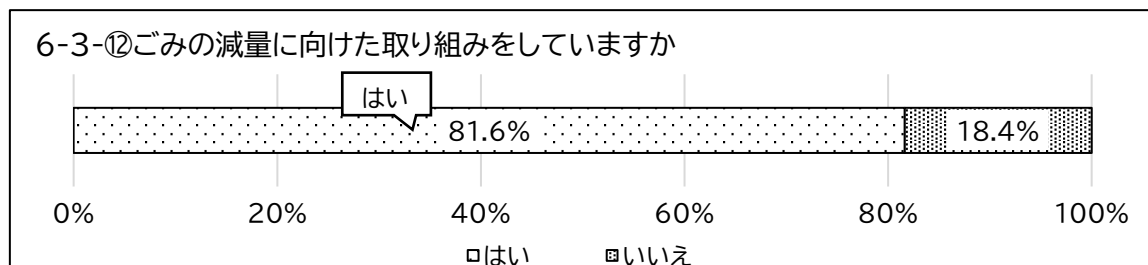
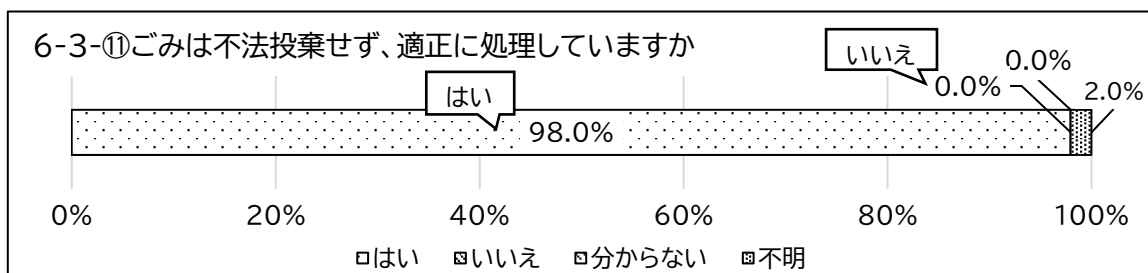




【6-3 ごみ・公害のこと】

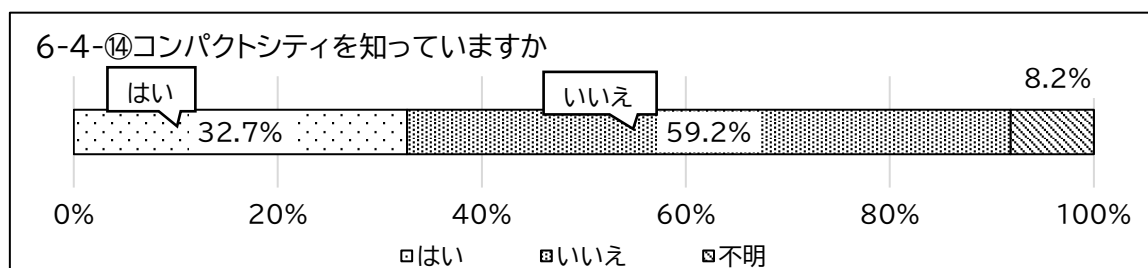
野焼きをしてしまったことがあると答えた事業所は1割で、ほとんどの事業所が野焼きをしたことがないという結果になりました。また、ごみを適正に処理していると答えた事業所は約9割、ごみの減量に取り組んでいる事業者は約8割となりました。

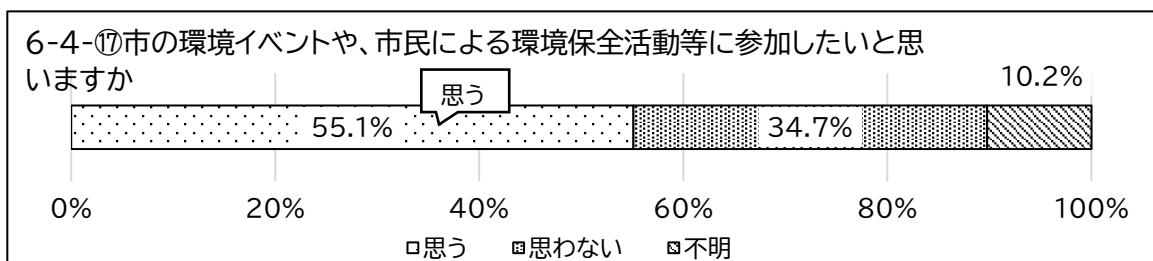
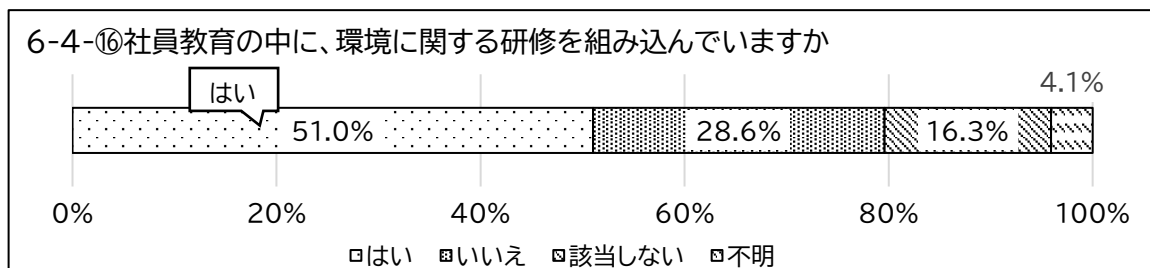
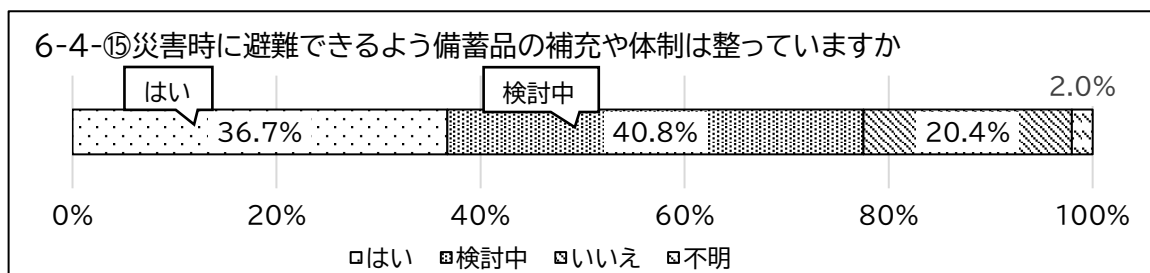




【6-4 学びのこと】

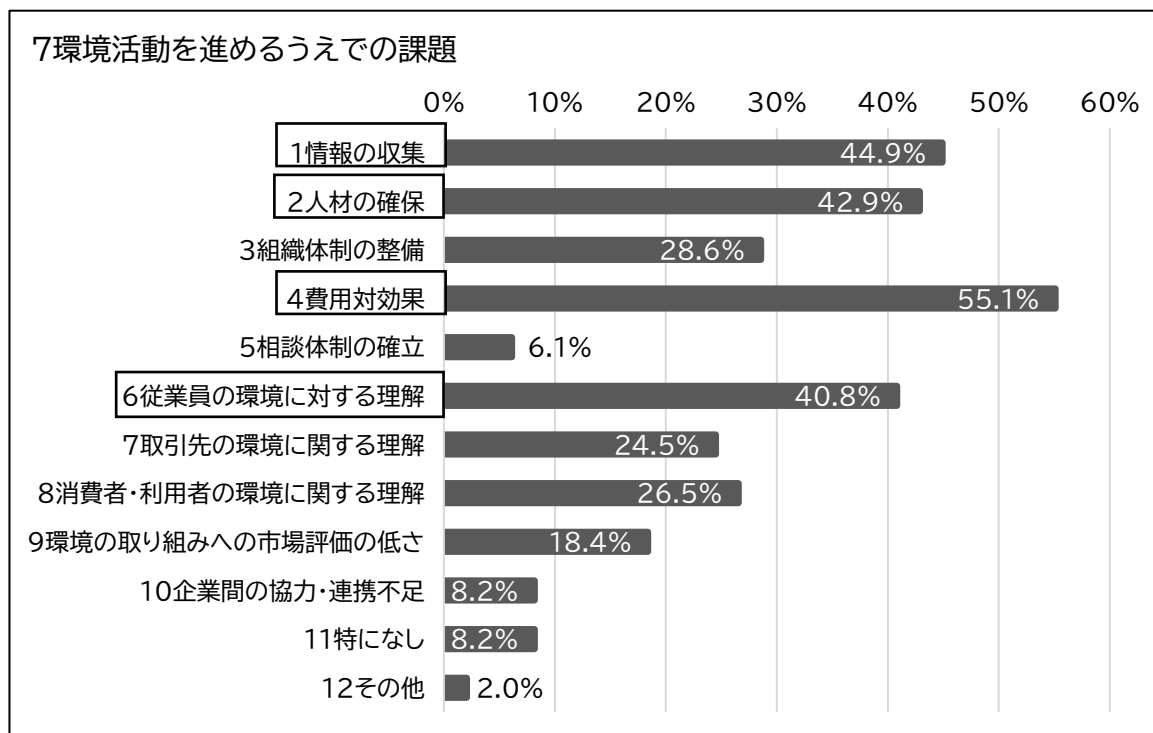
社員教育の中に環境に関する研修を組み込んでいる事業所は約5割となりました。また、環境イベントや環境保全活動等に参加したいと答えた事業所は約6割となりました。





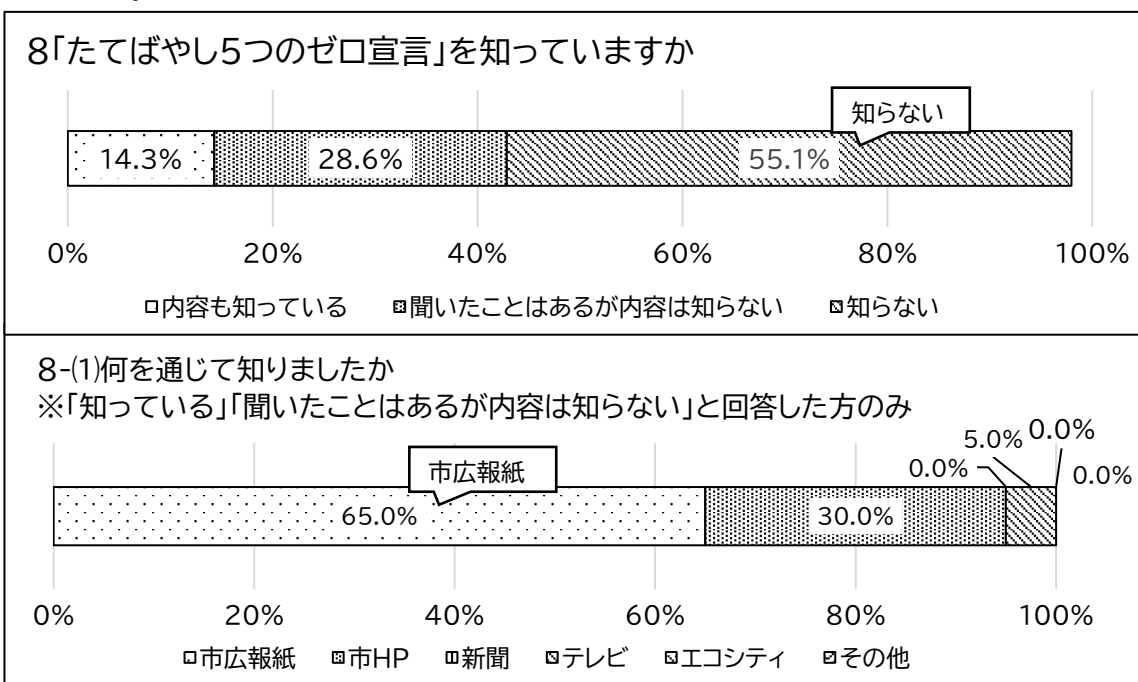
【7 環境活動を進めるうえでの課題について】

一番多かった課題は「費用対効果」でした。次いで「情報の収集」、「人材の確保」、「従業員の環境に関する理解」となりました。



【8 たてばやし5つのゼロ宣言について】

「内容も知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた事業所は約4割に対し、「知らない」と答えた事業所は約5割となりました。また、何を通じて知ったかという質問では、市広報紙で知った事業者が約7割、次いで、市ホームページが3割となりました。



(1) 第三次館林市環境基本計画の進行管理について

1. 館林クールシェアスポット事業の廃止について

「館林クールシェアスポット」とは、家庭のエアコンの使用台数を減らして、家庭の消費電力を抑えるために、公共施設や商業施設をみんなで集まって涼む場所「クールシェアスポット」として登録し、利用してもらうものです。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、登録施設の募集はせず事業は実施しませんでした。

また、以下の理由を考慮し、本事業については廃止することといたしました。

〈廃止の主な理由〉

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、特定の場所に人が集まるよう啓発することは好ましくないため
- ・令和元年度では登録施設の半数以上が公共施設で民間からの応募は少なく、新型コロナウイルス感染症が収束しても、新たなスポットの確保が見込めないため
- ・クールシェアスポット登録ガイドラインでは、概ね1時間以上過ごすことができる場所であることとされているが、市内では該当する施設が少なく、事業の拡充が難しいため

2. 基本目標3の環境指標について（本誌 P26）

館林クールシェアスポットの廃止に伴い、基本目標3「緑潤う快適なまち」の環境指標⑬「快適」の新たな指標として、以下のとおり提案させていただきます。

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	令和2年度
⑬緑	家の庭の緑化に取り組んでいる市民の割合※	—	80%	85%	74.9%

※市民・事業者アンケート調査結果より算出

〈指標について〉

- ・まちなかに緑が増えることで、植物がつくる日陰、気化熱によるクールダウンを目的とし、ヒートアイランド対策に寄与するもの
- ・緑化による景観の向上で、視覚的にも快適と思えるまちづくりにつなげていく

(1) 第三次館林市環境基本計画の進行管理について

第三次館林市環境基本計画の掲載内容について、転記ミスがありました。

以下のとおり訂正いたします。

〈訂正箇所〉 本誌 27 ページ ・ 環境指標⑭「市民の低炭素設備機器導入率」の現状値
 ・ 環境指標⑮「市民の省エネルギー実施率」の現状値

(訂正前)

項目	環境指標	現状値 (平成 29 年度)	中間目標値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 11 年度)
⑭再エネ	市民の低炭素設備機器の導入率(※1)	22.4%	50%	70%
⑮省エネ	市民の省エネルギー実施率(※2)	40.9%	50%	60%

(訂正後)

項目	環境指標	現状値 (平成 29 年度)	中間目標値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 11 年度)
⑭再エネ	市民の低炭素設備機器の導入率(※1)	22.9% (令和元年度)	50%	70%
⑮省エネ	市民の省エネルギー実施率(※2)	40.5% (令和元年度)	50%	60%